



優秀賞

株式会社 小松隼人建築設計事務所
小松 隼人

【作品名】
己斐の家

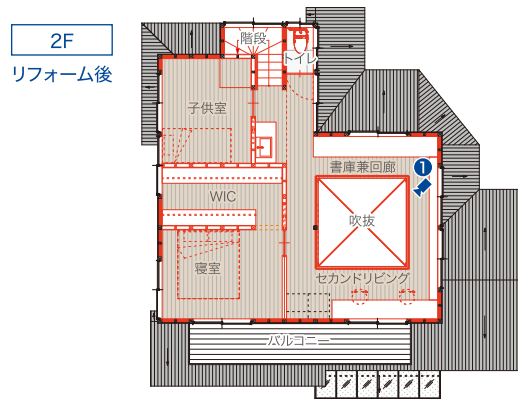
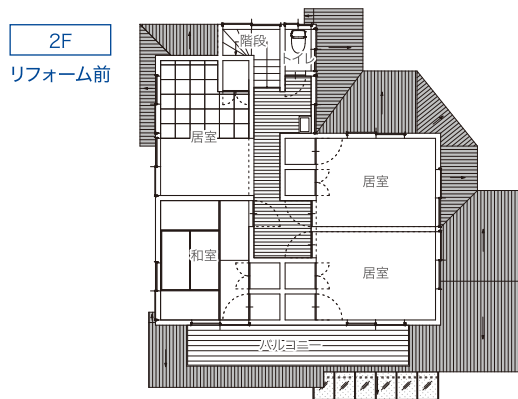
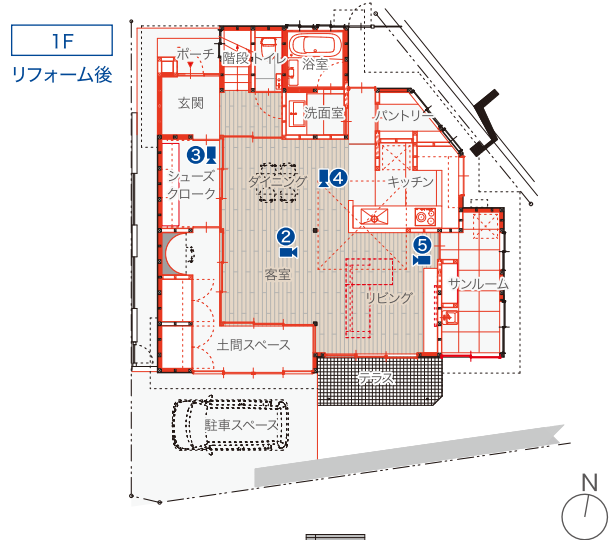
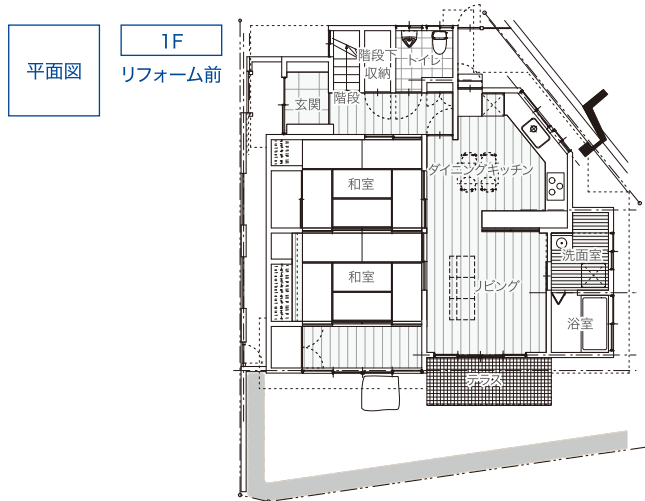
設計	株式会社 小松隼人建築設計事務所
施工	株式会社 CozyCozy
竣工日	2021年9月29日

建物概要

建設地	広島県広島市	延床面積	137.89㎡
敷地面積	200.23㎡	構造・規模	木造2階建

設備面の特記

厨房機器	ガスコンロ
給湯機器	ガス給湯機
冷暖房機器	エアコン・床暖房(ヒートポンプ式)



設計コンセプト

広島市の市街地に建つ住宅の改修計画である。敷地周辺は道路幅の狭さなどを理由に空き家が目立ち始めているが、緑豊かな環境は市内であることを忘れさせる。この地で生まれ育った建主は、築50年程の住宅を譲り受け、改修しながら住み継ぐことを決断された。要望を整理していくと、最小限の操作で住環境が良くなる方法を選ぶ必要がある。

まず既存建物から現状の風の滞りを読み取ると、ひとつの場所に風穴を開けることで、熱環境の流れがつかれるとわかった。既存2階の東南方向の2室をどちらかではなく、互いをまたいで床を大きく開口したことが主な操作となるが、その開口を熱環境の重心とすることで、光の流れ、風の流れを上下階に紡いだ。開口の位置と寸法は2階の窓が開閉できるように回廊をつくること、採光が1階の北側

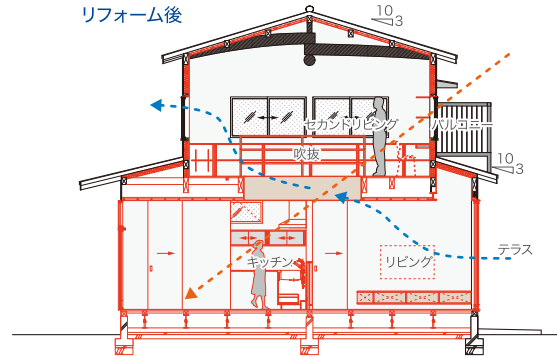
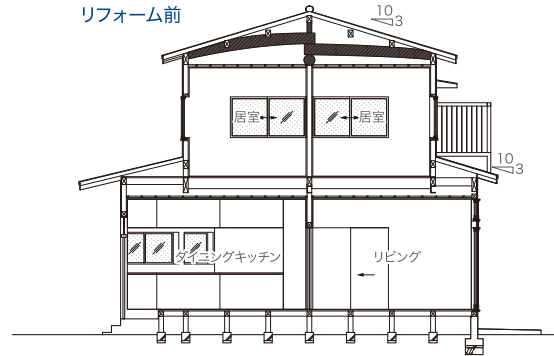
居室まで届くことを考慮して決定している。開口の周りにできた余白は書庫も兼用した回廊と家族のセカンドリビングとなり、1階のリビングと垂直の繋がりもつくりだせた。

再建築に多くの課題がある市街地は、その理由で未来から取り残されていく。しかし、ライフスタイルが多様化した現在であれば、車が必要ない暮らし方や、仕事場や店舗として活用するなど、様々な既存建築物のストック活用が考えられる。若い世代の積極的なストック活用がこの市街地の空洞化をなくす一助となることを期待したい。

審査委員講評

外観は昭和の時代に建てられた住宅の面影を残しながらも内部では大胆なリノベーションを行い、時代を超えながら現代の住まいにチューニングした設計者の技量を感じさせる住宅です。オリジナルの持っている骨格の良さを活かし、熱環境を上手く読み解きながら豊かな住まいの空間を実現しています。長い時間佇んできた風景を残しながら未来へ住み継がれる好例だと感じました。

断面図



- ①2階のセカンドリビングはそれぞれの方位に窓が配置され、採光も風通しもよく窓から見える景色が長閑である。最小限の所作で住環境が良くなる改修を選び、住宅の熱環境を循環させた。
- ②2階東南方向の2室を互いにまたいで床を大きく開口し、光の流れと風の流れを上下階に紡いだ。



- ③1階には南北を貫通する土間スペースを設けて風の通り道をつくり、冬季は南からの採光を受け止めて蓄熱させる。断熱は既存の断熱材をすべて現行の基準に合わせ、さらに土間と居室の境界に内窓を設けることで断熱性を高めている。
- ④キッチンからはリビングを通じて庭をのぞみ、家事をしながら吹き抜けの2階の様子も感じられる。
- ⑤リビングからダイニング方向を見る。住まいの一体感を感じながら、明るく開放的な作りとしている。